

## 乳児保育所の実態に関する研究

(分担研究：新生児・乳児の在宅療法と生活管理をめぐる保健指導に関する研究)

研究協力者 小 泉 武 直

**要 約**：昨年度の本研究においてNICU退院児の母親の有職率が低いことが明らかとなり職場や地域における育児環境の問題が示唆された。そこで本年度は、0歳児保育を行っている保育所の実態について調査を行った。その結果、0歳児保育を行なっている保育所でも園医に小児科医が少ないことが明らかとなった。

**見出し語**：在宅ケア、育児環境、保育所

**研究方法**：群馬県県民生活部より全県下の保育所のリストを得て、平成2年10月の時点での0歳児保育の有無、運営母体、補助金申請の有無、園医の氏名および標榜料についてのアンケート調査を行った。

**結 果**：へき地保育所7か所を含む429保育所より回答があり、回収率は100%であった。この429保育所のうち231保育所(53.9%)が0歳児保育を行っており、乳児保育可能であった。乳児保育可能な231保育所の運営母体は24(10.4%)が公立で、207が私立であった。

乳児保育可能な231保育所の園医の標榜料は表の如くであった。園医が小児科医である保育所はわずか35カ所(15.2%)であり、都市部が15.2%で郡部が14.9%と、都市部と郡部の差は認められなかった。小児科専門および小児科も標榜している医師が園医をしている保育所は152カ所(65.8%)であった。

**考 察**：平成元年度の本研究においてNICU退院児の母親の有職率は22.7%であった。これは総務庁統計局による「労働力調査」の昭和60年有配偶者女子労働率20～24歳40.8%、25～29歳38.9%や群馬県企画部統計課による昭和62年の「就業構造基本調査結果の概要」の20～24歳40%、25～29歳37.8%に比し明らかに低い傾向にあり、職場や地域における育児環境の問題が示唆された。そこで本年度は、群馬県における保育所のうち0歳児保育の実施状況および園医についての調査を行ったが、0歳児保育を行っている保育所においても小児科専門医が園医となっているのは15.2%の低率であった。このことは、在宅ケアを必要とするような児のスムーズな入園および通園を困難にしている一因と考えられるとともに、社会の急激な変化および少産(少子)時代の乳幼児の生活管理をめぐる保健指導の観点からも小児科医が積極的にとりくまなければならないことを意味している。

# 群馬県における乳児保育所の実態

## — 園医の標榜料 —

地	域	乳児保育可能な保育所数	園医の標榜料		
			主に小児科	小児科も標榜	その他
前橋	前橋市	25	8	10	7
	郡部	5	0	5	0
高崎	高崎市	46	6	21	19
	郡部	8	0	2	6
桐生	桐生市	15	5	3	7
	郡部	4	0	4	0
伊勢崎	伊勢崎市	20	2	16	2
	郡部	11	8	2	1
太田	太田市	26	2	15	9
	郡部	12	0	6	6
渋川	渋川市	4	1	2	1
	郡部	6	0	3	3
藤岡	藤岡市	12	0	6	6
	郡部	7	0	3	4
富岡	富岡市	7	0	4	3
	郡部	4	0	4	0
安中	安中市	3	0	3	0
	郡部	0	—	—	—
中之条	中之条町	0	—	—	—
	郡部	0	—	—	—
沼田	沼田市	2	0	1	1
	郡部	2	0	1	1
館林	館林市	4	1	2	1
	郡部	8	2	4	2
合計		231	35	117	79
			152		



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:昨年度の本研究において NICU 退院児の母親の有職率が低いことが明らかとなり職場や地域における育児環境の問題が示唆された。そこで本年度は、0 歳児保育を行っている保育所の実態について調査を行った。その結果、0 歳児保育を行なっている保育所でも園医に小児科医が少ないことが明らかとなった。